

北大オリジナル
アカデミック・リーディングの基礎
ビデオ教材

Modular Approach to Reading

Foundations for Academic Reading Skills



北海道大学外国語教育センター

Reading ビデオ教材作成タスクフォース

Satoshi Oku
Jeff Gayman
Juhyeok Jang
@2020

revised 2022, May

Contents

General Introduction

Reading for Communication p.4

Unit 1 Grammar Matters p.9

Unit 2 Dictionary Helps p.16

Unit 3 Sentence Connector (1): *The* p.22

Unit 4 Working with Chunks p.28

Unit 5 Hypothetically Speaking p.33

Unit 6 Structures Signify p.40

Unit 7 Sentence Connector (2):

Pro-forms and Ellipsis p.47

Unit 8 Coping with Numbers and Names p.54

Unit 9 Inference

and Knowledge of the World p.62

Unit 10 Culture Bound

— & General Conclusion — p.68

Tips from Center for Language Learning

外国語教育センターからのメッセージ

- | | |
|---|------|
| (1) 「3つの呪い」から自由になろう | p.7 |
| 呪いその1：点数・成績の呪い | |
| 呪いその2：「ネイティブのように」の呪い | |
| 呪いその3：「役に立つ英語」の呪い | |
| (2) 「不規則動詞」：日本語にもあるよ！ | P.14 |
| (3) コロケーション：日本語でも無意識のうちに | p.20 |
| (4) Acronym (頭字語)で語彙力アップ | p.21 |
| (5) 定冠詞 the のあるなしが大きな違いに | p.26 |
| (6) かたまり (chunk) で考えることの重要性 | p.32 |
| (7) 語順を手掛かりに「前後のつながり」を見抜く | p.46 |
| (8) 代用表現：「訳語」を超えて | p.52 |
| (9) 固有名詞・数字：やさしそうに見えるものこそ reading の時にしっかり確認 | p.61 |
| (10) Reading が苦手 (不得意) な人：チャンスです | p.72 |

General Introduction: Reading for Communication

Hello, everyone. I am Jeff Gayman. Welcome to our special lecture “Modular Approach to Reading”. In this lecture series, we are going to learn various important aspects of reading for academic purposes.

みなさんこんにちは、奥聡です。このレクチャーシリーズでは、大学に必要なアカデミック・リーディングの基礎を学びます。受験勉強も終わり、いまさらリーディングなんて、と思う人もいるかもしれません。

You may think you are tired of reading; you want to learn something more “practical”. However, if you can just forget your test scores and school records, you may find many more attractive and useful aspects of reading activity, which is very practical indeed.

まずは、成績や点数をとるための勉強を卒業しましょう。そうすると、英語に取り組むことがずっと楽しく、また知的に魅力的な活動であることに気が付くはずです。そして、そのような reading の活動は実用的英語力全般の重要な基礎となります。

The very first important point to remember is that reading is not “translation.”

まず最初にしっかり覚えて欲しいことは、リーディングとは「英語を日本語に訳す」ことではない、ということです。

So, let us consider the following example. How to translate this sentence?

この文をどのように訳しますか？

“Save yourself!”

The proper answer to this question is “I don’t know. In other words, it’s impossible to translate it without any specific context”.

「文脈も何もないので、訳しようがありません」というのが誠実な答えですね。

It depends on the context: who the speaker is, who the addressees are, what the situation of the utterance is, and so on. That is, reading is communication with the author.

内容を読み取る、ということは、書き手（あるいは話し手）とのコミュニケーションです。

誰が誰に向かって書いたものなのか、どのような状況で書かれたのかを考慮に入れて、書き手が本当に伝えたいことをしっかり読み取ること、これが reading の本質です。

So let us provide two different specific situations for this sentence.

[状況・文脈その1]

The players are practicing hard at the end of the day. They have an important game tomorrow.

明日大事な試合を控えている選手たちが、練習終了の時間が近づいてもハードな練習を続けています。

Then, the coach yells. “Save yourself!” What the coach intends to mean is: “Don’t work too hard”, “Don’t waste your energy”, “Slow down”, and so forth. And there would be dozens of ways to translate this into Japanese.

この文脈なら、日本語で「あんまり飛ばすな～」「無理するなよ」「押さえとけ～」など、いろいろな言い方ができますね。ここで重要なのは、どう訳すかではなく、伝えようとしている「意味」を正確に理解することです。

What is the most important here is not how to translate, but rather to understand properly what the speaker intends to convey.

[状況・文脈その2]

Now, using the same sentence, let us consider the second situation: Pinocchio.

同じ文でも次の文脈ではどうでしょうか？

The angry whale is trying to attack Geppetto and Pinocchio in the sea; Geppetto is drowning and Pinocchio is trying to help him.

怒ったクジラが、海の上でゼペットとピノキオに襲いかかります。力尽きて溺れかけているゼペットをピノキオは何とか助けようとします。この状況で ...

Pinocchio: Father!

Geppetto: Save yourself!

What Geppetto intends to mean here is: “Don’t mind me.” “Mind your own life.” “Just leave me”, and so forth. And again there would be several ways to translate this into Japanese.

この状況なら、日本語では「お前だけでも助かれ」「ワシに構うな」「いいから行け」などいろいろ考えられます。ここで、先ほどのコーチのように「無理するなよ」という意味ではおかしいですね。

Reading is not just translation: 「読解」とは「訳すこと」ではありません

So, from these examples, you can see that reading is not translation; it is communication with the author.

You really have to try to understand what the writer or the speaker intends to mean.

リーディングは「訳すこと」ではない、ということが、これらの例からもよくわかるでしょう。

Then, what do we need if we want to have good communication with the author in a foreign language?

では、外国語で書かれたテキストの著者とよいコミュニケーションをとるには、何が必要でしょうか？

Vocabulary and grammar? Yes, but alone they are not good enough.

単語力と文法の正確な理解は必要です。しかし、それだけでは足りません。

What we really need are “inference”

推論する力

and “knowledge of the world”.

そして世の中に関する知識です。

They are also essential.

推論力 Inference と世の中のことにに関する知識 Knowledge of the World が不可欠

Jeff [finding a very nice place for beer]: [very happily] Hey, Jang san. Shall we go for some beer after 5:00 today?

Jang san: [Calmly] Oh, sorry. I have two term papers due tomorrow.

Speaker A: Shall we go for some beer after 5:00?

Speaker B: I have two term papers due tomorrow.

It is easy to understand that Speaker B turns down the invitation by Speaker A.

この会話、A の誘いを B が断っているということは簡単に理解できますね。

Why can we understand that Speaker B actually means “no” to speaker A’s suggestion?

なぜ、B は Yes とも No とも言っていないのに、A の誘いを断っていると、我々は理解できるのでしょうか？

We can do this by using our knowledge of the world and inference, which tell us that Speaker B is very busy now, and he has no spare time to go out with his friend, and therefore, he is turning down Speaker A’s invitation.

B の発言とこの文脈から、B は今忙しい、友達と外出している暇はない、よって、A と一緒に行けないということを伝えようとしている、と理解できます。

We can see from this example that inference and knowledge of the world are very important in understanding sentences. In other words, reading is an activity in which various types of our knowledge must be coordinated.

リーディングは、単語や文法だけではないことが分かりますね。推論力や世の中に関する知識がとても重要です。リーディングは総合力なのです。

Organization of the Series このビデオ教材の構成

Now, let me briefly show you the organization of this lecture series. **Unit 1**, and **Unit 3** through **Unit 7** are dealing with grammatical aspects of English, but from quite different perspectives from the school grammar you studied for your entrance exams.

Unit 1, そして **Unit 3** から **Unit 7** までは、受験勉強の時とは一味違う角度から、英文法を考えてみます。

In **Unit 2**, we will provide a few important hints about how to use your dictionaries effectively.

外国語が苦手な人は、実は辞書が上手に使えていないことが多いようです。**Unit 2** では、辞書の面白い使い方のヒントを紹介します。辞書は訳語を探すだけではありません。うまく利用すると、本当に役に立ちます。

In **Unit 8**, we will learn how to cope with numbers and names, which often can be a pitfall in reading texts in a foreign language.

数字と固有名詞、一見やさしそうなのですが、ここに落とし穴があります。ちょっと気を付けると、実践的な英語力の基礎になります。

And finally, in **Unit 9** and **Unit 10**, we are going to discuss the significance of inference and knowledge of the world, especially when the latter is culture bound.

最後の 2 つの Unit は、推論と世の中に関する知識の重要性を紹介します。これはしばしば見落とされがちですが、実際には語彙力や文法力と同じくらい重要な点ですので、しっかりと学んでください。

Reading is Communication with the Author : 「読解」とは書き手との「コミュニケーション」

Finally, you might wonder why reading? In this lecture series, we emphasize that proper reading activity gives you essential foundations for other aspects of your English.

点数や成績のためではなく、書き手とのコミュニケーションを意識した reading をしっかりやることで、他の実

実践的な英語力にとっても重要な基礎力が身につくのです。

Reading is communication with the author and reading is foundational for listening comprehension, clear and accurate speaking, and attractive and comprehensible writing.

つまり、しっかりとしたやり方で reading を行うことは、全ての実践的な英語力の基礎となるのです。

Jeff: So, are you ready?

Satoshi: We hope you enjoy the lectures.

Jang san: Good luck!

=====

Tips from Center for Language Learning 外国語教育センターからのメッセージ(1)

大学での外国語との付き合い方：まず「3つの呪い」から自由になろう

呪いその1：点数・成績の呪い

自分の（外国語）学習の目的は何ですか？

中学生・高校生の考え方：目的はよい点数を取ること、よい成績をとること

大学生は？ 人それぞれですが：

- ・自分の研究や仕事に必要な外国語文献を時々辞書も使いながら正確に読み取ること
 - ・自分の研究や仕事に必要な情報発信を外国語で分かりやすくできる
(実際の情報のやり取りはメールや SNS など、読み書きを通して行うことが、圧倒的に多い。
直接会って話をするよりもはるかに多いのが一般的（日本語の場合でもそうかも))
- つまり、読み書きの能力が一般的な大学生の外国語学習では最も重要です。

点数や成績を目標にしてもできるようにならない理由(1)

- ・自分の好奇心にもとづいていないので、長続きしない
- ・授業や宿題、試験は、毎日はない。(必修の授業がなくなれば、やられる勉強はゼロに)
- ・外国語学習の秘訣は、コツコツと長く続けること
- ・よって、点数や成績を目標にしてもできるようにはならない

点数や成績を目標にしてもできるようにならない理由(2)

- ・点数や成績を気にすると、どうしても友だちや他の人と自分を「点数で」比べてしまう。
- ・本当は興味があるのに、「友だちよりも点数が低い」→「恥ずかしい」→「苦手」→「嫌い」
- ・せっかくの自分の興味や好奇心（未知のことを学ぶのは本当は誰でも好き）に蓋をしてしまう

呪いその2：「ネイティブのように」の呪い

- ・学校での外国語学習の目的は「ネイティブのようになること」ではありません。
- ・中学高校での平均的な英語の授業時間は6年間で950時間です。
毎日16時間英語だけの生活をしている英語母語話者と時間を比較すると
 $950 \text{ 時間} \div 16 \text{ 時間} = \text{約 } 60 \text{ 日 (2 ヶ月弱)}$
- ・平均的日本人は中高の間で、英語を「6年も」ではなく「2 ヶ月しかやっていない」のです。
- ・「ネイティブのように」ならなくても、全く問題ありません。

- ・非英語母語話者として、しっかり文献を読む力、分かりやすく発表をする力、分かりやすく丁寧に書く力を、自分の必要に応じてつけて行けばよいのです。
- ・非英語母語話者のスピーチでも（ネイティブのようにペラペラ話さなくても）世界中の人を引き付ける例はたくさんあります。

山中伸弥先生のノーベル賞受賞講演

<https://www.nobelprize.org/prizes/medicine/2012/yamanaka/lecture/>

Malala Yousafzai (当時 17 歳)の国連での speech

<https://www.youtube.com/watch?v=3rNhZu3ttIU>



北大生が目標とすべき、1 つのよいお手本でしょう。一部だけでも見て、参考にして。

呪いその3：「役に立つ英語」の呪い

- ・学校で学ぶ教科はどんな科目でもある程度は役に立ちますし、どんな役にでも立つものは1 つありません。
(体育を学んでも全員が国体に出られるわけではありません)
- ・6 年間で「2 ヶ月弱」しか学んでいない英語が、ありとあらゆる場面で「役に立つ」ことを期待する方が無謀でしょう。
- ・学校の教科は（どの教科も）、学習者が自分の資質や興味に合わせて、「自律的に」力を伸ばしていくための、基礎固めをするものです。
- ・「教えてもらって何かができるようになる」（中高生の発想）から「授業をきっかけとして、習ったことを土台にして、自分で何かができるようになってやろう」という発想にはやく切り替えることが重要。
- ・平均的には北大生にとって「役に立つ」「必要とされる」英語力は、専門の文献を早く正確に読み取る力、自分の研究結果を分かりやすい英語で書く力、分かりやすいプレゼンテーションをする力（山中先生のスピーチを参考に）など。（道を聞かれて、瞬時にすらすら、ぺらぺらと教える英語力は必ずしも必要ありません）

さあ、大学生になったのですから、もし、まだこの3つの呪いから解放されていない人は、早く呪いから自由になって、本当に自分の興味や好奇心を満たすような学習方法を編み出してください。このビデオ教材にそのためのヒントがあるかもしれません。